

子ども平和新聞

2025.7.29
美園北小 6年
武井 淳広
埼大附属小 5年
菅菜々子
村石 華音
大宮国際中等教育学校
1年 木暮千紘

今も変わらぬ被爆者の願い

飛び立つ

しらすぎの思い

今回は、しらすぎ会
の木内ゆき子さんに戦
争のかこについてお聞
きました。「私のお
父さんはけいお所で働
いていたのでけいお所
に住んでいました。」

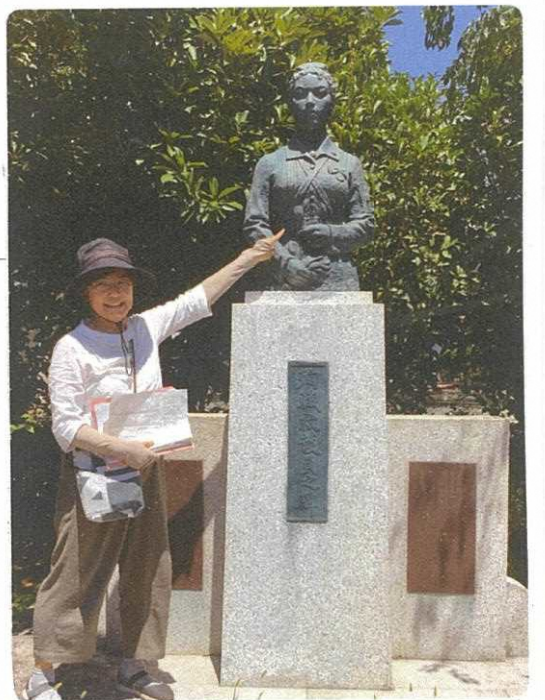
月6日8時10分ごろ、
岡山から広島はB29
が来たということであ
る。うけいぼうが死
いされたんです。そし
て防空こうに入らな
く、はいけないとい

きにB29が帰った
という情報はない、た
んず。私は近くのお
名屋さんへ、兄は中
小学校へ、その時ピ
とするどい光を受け
ました。その時は気
絶してしまいました。気が
ついてしばらくすると
けいお所に行きお母
さんに会いました。そ
後の生活はがまん、水
んぞくでした。ですが
学校に通わせてもら
ただけで幸せでした。

私はまだ、広島で
助けられる年はい
なかた。だからこ
人のやくにたいたい
思いかんじになり
ました。そして、戦
歴史を伝え学ばせ
と希望の未来をつ
でほしいと語った。

（菅菜々子）

自身の体験について語る木内さん



殉職救護員の碑について説明する入江さん

博愛人道 胸に救護

日本赤十字社埼玉支
部の敷地内に建つ「殉
職救護員之碑」には、

戦時中の人々の思いが
つまっている。この記
念碑は、日本赤十字社
の移動にもなっている
の場所へと移された。
殉職救護員の碑には、
「博愛人道」を胸に救
護していたと言う。こ
の言葉には、敵も味方
も平等に救護する、と
いう強い意志が込めら
れている。博愛人道を
胸に、自分の命を顧み
ずに働いた人々を後生
に伝えていくために、
この記念碑は作られた
のである。【木暮千紘】

消えていった 宝箱



奉安殿

「奉安殿」消えてい
った宝箱。戦中、その
中には教育勅語や、天
皇、皇后の写真が入っ
ていた。「奉安殿」と
は、大切なものを保管
している特別な建物の
こと。大切な天皇、皇
后の写真などの宝物を
守るのに先たちは必
死だった。もしもそれ

かた場合は校長が自
殺する例もあったとい
う。今、奉安殿が少な
いという事実は「昔の
日本と今の日本は全然
ちがったんだな」とい
うことを教えてくれる
貴重な歴史の証人へと
変化している。

武井 淳広

石けりあそび

戦争があり食べ物や
家などがなくなるとし
まいくろうしたと木内
さんは話しています。
家族は元気でした。が
うく4月の間、学校に
通えなかつた。聞いて
います。それから、少
しの間で、たが、学
校に通えた時は、こ
もうれしかた。それで
す。他にも良くない事
は続きます。例えば戦
争中の食べ物は、こ
マズいのですが、数
少ない食料なので、毎
日命に食べたそうです。
学校に行くようにな
ると女の子は、石けり
あそび。男の子は部屋
あばれていたそうです。
少ないしあわせの中
で、大きなあわせが
ありました。ばくだん
くは、数日間、い
お所にくらしていた
うなのですが、ろう
と歩いて、いた所、
したので、行、て
とお母さんがいた
です。木内さんは
必したそう。家族
全員が、ういみ
いばりさ果にも
りしたそうです。

（村石華音）